



青森河川国道ニュース

お問合せ先: 国土交通省 青森河川国道事務所 地域づくり相談室 〒030-0822 青森市中央三丁目20-38 TEL017-734-4529

平成30年
100周年
岩木川改修事業

歴史編 VOL.7

今年(平成30年)、大正7年12月から始まった岩木川改修事業が100周年を迎えることから当ニュースでは、その改修の歴史や100周年に向けた各種行事やイベント情報などを定期的に発信していきます。

岩木川の治水に尽くした人々(明治~昭和初期)

■岩木川の治水は、流域住民の長い間の念願でした。現在の岩木川堤防は多くの先人たちの努力によって築かれた偉大な遺産です。



■工藤 行幹氏(くどう ゆきもと)

天保12年(1841)弘前生まれ。北津軽郡長、西北両津軽郡長を歴任。明治23年、第1回の衆議院議員に当選。以来、同37年4月死去するまで連続当選。

常時、自宅居間に岩木川地帯の大地図を掛けて西北津軽郡の治水解決を念願し努力した。

その結果、全国の主要河川が継続費制度によって改修されることになり、明治44年、政府が策定した全国治水計画における国直轄で改修すべき65河川の内、第一期改修の20河川に岩木川が位置づけられた。



■小野 忠造氏(おの ちゅうぞう)

安政2年(1855)北津軽郡三好村(現五所川原市)生まれ。

幼い頃から「津軽の人々の幸福は岩木川の治水なり」の信念のもと、私費をもって五所川原乾橋から十三湖まで実測、また、単身で津軽地方の山々を踏破し、水源地を探り、岩木川一帯の地図と調査書を作成して工藤行幹代議士及び県・内務省に提出して治水の促進を図った。

さらに、藻川地区に堤防を築くなど、生涯を岩木川治水にかけた人物。



■川村 善八氏(かわむら ぜんはち)

弘前藩士で温厚篤実、才学に富み、明治13年、20余歳で西津軽郡書記となり、北・西両津軽郡戸長の陳情書及び両郡長の副申を書いた。

明治37年から昭和2年まで五所川原農学校で教鞭をとったが、明治40年以来毎年、建議書、陳情書を書き、その他の調査書等を添削するなど、岩木川改修促進の陰の功労者であった。



■阿部 武智雄氏(あべ むちお)

文久元年(1861)北津軽郡七和村羽野木沢(現五所川原市)生まれ。明治40年、県議会議員に当選、同42年阿部氏他12議員の主張で岩木川改修促進の建議が県議会で満場一致で可決され、政府に提出された。

翌43年、岩木川改修期成同盟会を結成、阿部氏が初代会長となり尽力。

また、大正6年に衆議院議員に当選し、翌7年、国直轄工事の着工が実現した。



■長尾 角左衛門氏(ながお かくざえもん)

明治13年(1880)、北津軽郡三好村(現五所川原市)生まれ。

北津軽郡会議員、三好村会議員、県会議員、三好村長、五所川原市議会議長などの要職を歴任。

明治43年には、岩木川改修期成同盟会の設立に参加し、昭和7年からは同会長として昭和23年まで在任、長期間にわたり心魂を傾けて改修事業にあたった。その任を退いた後も岩木川に対する愛情は少しも変わることなく、昭和34年に治水事業功労者として日本河川協会から表彰されている。また、昭和22年頃から18年の歳月をかけて昭和40年12月「岩木川物語」を書き上げた。85歳であった。同書は岩木川に関する貴重な資料の集大成として、高く評価され、今日も活用されている。

■長濱 時雄氏(ながはま ときお)

大正8年京都大学卒業と同時に岩木川改修事務所赴任。大正14年から2年間所長代理をつとめ、突堤の試験施工に着手、大正15年仮突堤工事に着手し、水戸口突堤の位置を決定・設計した。